

# おかげさまで 国語

題字  
国語部長  
牧野 守先生



岡崎市現職研修委員会  
国語部

令和4年7月6日(水)

第1号

## 教科の独自性と授業力

現職研修委員会国語部長 牧野 守

本校の今年度の研究推進の中心に「国語科・算数科の授業の充実」を据えた。

昨年度から、職員の校長の話の時間を使って、ときどき国語科の授業について話してきた。

昨年度末は「かさこじぞう」の一場面を取り上げ、動作化や劇化、場面の状況を明らかにすることに ついて考えてもらった。「おつむの雪をかきおとしました」の部分を動作化するように促した。この部分の動作化を的確に行うことで、おじいさんの心情、場面の状況が明らかにできる。そこから、ことばを、体験を通して実感をもって

学ぶことを考えてほしいと願った。

今年度五月の職員会では、説明文「自然のかくし絵」を取り上げ、説明的文章に表れる筆者の論理的な思考とはどのようなものかについて考えてもらおうと思った。次に示す結論が書かれた最後の段落を要約するように促した。

「このように、ほご色は、どんな場合でも役立つとはかぎりませんが、てきにかこまれながらこん虫が生きつづけるのに、ずいぶん役立っているのです。ほご色は自然のかくし絵ということができますでしょう。」

要約や要旨をまとめるには、単

にキーワードをつなぎ、短くすればよいのではない。筆者は、思考力をはたらかせ、結論に説得力をもたせるために、どのような具体例や事実を取り上げるのかを十分吟味している。それをふまえないければならない。

筆者は、「ほご色はどんな場合でも役立つ」ではなく「ずいぶん役立つ」と述べている。「ずいぶん」と述べたところに、筆者の思考がはたらいっている。筆者は、結論の段落の前で、保護色を使っていて、その生き物が動いてしまい敵に見つかることがあるという事実を述べている。このことから、保護色は万能ではないこと、文字どおり、「ずいぶん役立つ」ことが伝えたかったことだと考えられる。

もっと時間があれば、具体例の取り上げ方の工夫にも筆者の思考

力や個性が表れることなども伝えたいところだ。

先日、外部から講師をお招きし、算数科の現職研修として、「主体的・対話的で深い学びをめざして「学び合いが深まる算数の授業づくり」」と題して講義をしていた。そのなかで、算数科の授業で大切にすべきことについて話していたくとも、教師のほたらきかけや、子供たちの意見や考えの受け止め方が子供たちの見方や考え方を深めるよう意図されなければならないことを、算数科の具体的な指導場面を交えながら教えていただいた。どんなにより学習内容、学習活動、発問であるうと、生かすも殺すも教師の授業力次第である。それは、算数科であつても国語科であつても変わることはない。

考えること、話し合うことは楽しいことだ。それぞれの教科で考えや話し合いを深める方法は違う。チーム学習もしかり。

各学級で、国語科の独自性をふまえたよりよい授業が展開されることを期待する。

## 国語部行事予定

- 七月二十七日(水)  
授業力・教師力アップセミナー  
〔基礎編〕  
(総合学習センター)
- 七月二十九日(金)  
授業力・教師力アップセミナー  
〔応用編 小・国語〕  
(総合学習センター)
- 八月二日(火)  
授業力・教師力アップセミナー  
〔応用編 中・国語〕  
(総合学習センター)
- 八月五日(金)  
三教研夏季研修会  
(へきしんギャラクシープラザ)
- ※提案 生駒大典先生(六名小)
- ※助言 鈴木紀予子先生(下山小)
- 八月三十日(火)  
岡崎市教育研究大会  
(総合学習センター)
- 九月十三日(火)  
第二回国語主任会・作文審査会  
(総合学習センター)
- 十一月八日(火)  
第二回書写主任会  
(総合学習センター)
- 十一月十七日(火)  
第三回国語・書写主任会  
(総合学習センター)
- 一月二十一日(土)～  
二十三日(日)  
岡崎市小中学校書き初め展  
(岡崎市美術館)
- ※「形成の会」岡崎・幸田例会  
一月開催予定
- ※「さわらびの会」  
年間三回開催予定

## 本年度の研究の方向

本年度も国語部は、「小学校 文  
学・説明文」「小学校 表現・書写」  
「中学校」で、研究を進めます。  
今年度の研究主題は「言葉の力  
を磨き、高まりを実感できる授業」  
(三年次)です。研究主題に沿った、  
よりよい授業を目指し、実践に取  
り組んでいきます。

### ●重点的に取り組む視点

- ①「言葉の力」を付け、鍛え、磨く授業  
子供が「言葉の力」を付け、鍛え、  
磨くために重視したいのは、学びの主  
体性である。子供自身が、言葉に対す  
る見方・考え方をはたらかせたり、自  
らの認識を深めようとしたりするこ  
とに必要性を感じ、自ら学びに取り組  
んでいくことが求められる。
- ②個の学びを生かし、仲間とともに  
磨き合う授業  
個の学びを仲間と磨き合うために  
重視したいのは、思考の「見える化」  
である。それぞれの考えのずれや違い  
を明確にしたり、焦点化して深めたり  
することが求められる。
- ③生きてはたらく学力を育てる授業  
生きてはたらく学力を育てるため  
に大切にしたいのは、授業や単元の終  
末段階における振り返りの場の充実  
である。子供が学びをメタ認知し、今  
後の生活に生かすことができるよう  
な振り返りの工夫が求められる。

## 教育研究大会に向けて

八月三十日(火)に行われる、  
「岡崎市教育研究大会」に向けて、  
レポートの作成をお願いします。  
小学校の分科会については、「読む  
こと」が研究のねらい・活動の中  
心になっている指導実践は『文  
学・説明文(小)』の分科会で、「話  
すこと・聞くこと」「書くこと」が  
研究のねらい・活動の中心になっ  
ている指導実践は『表現・書写  
(小)』の分科会での提出をお願い  
します。レポートに事前に目を通  
し、岡崎の教員の力量向上につな  
がる研究大会にしていきましょう。

### 岡崎市小中学生作文コンクール 文集「おかざき」

岡崎市小中学生作文コンクー  
ルに向け、今後取り組まれること  
と思います。国語部ホームページ  
に、「生活作文の書き方」や「指導  
補助プリント」等の資料が掲載さ  
れています。ご活用ください。書  
くことを通して、子供の認識力を  
高めていくことができるように、  
作文指導をよろしく願います。

- ・応募票提出締め切り  
九月九日(金)
- ・審査会  
九月十三日(火)



## 国語教育自主研究サークル 「さわらびの会」

国語・書写の授業力向上をめざ  
して、六月十五日(水)に第一回  
さわらびの会を開催しました。授  
業での困り感を共有し、解決方法  
や効果的だった手だてについて、  
グループで話し合いました。

### 【参加者の声】

子供が、主体的に活躍できる  
授業にするために、どうすれば  
よいかを悩んでいました。

さわらびの会での話し合いを  
通して初発の感想から問いを生  
み出すことで、子供が主体的に  
学ぶ授業になっていくと感じま  
した。教師がもっていきたい問  
いにするのではなく、子供が考  
えたい疑問を「単元を貫く問い」  
にしていくことができるよう  
に、これからも努力したいと思  
いました。

新しい単元に入る時期に参加  
することができましたので、教  
材研究の仕方からもう一度見直  
し、子供が活躍する授業を目指  
したいと思います。

(矢作東小学校 福田彩那)

今後も、国語・書写の授業力向  
上につながる研修内容を実施して  
いきます。ぜひ、ご参加ください。